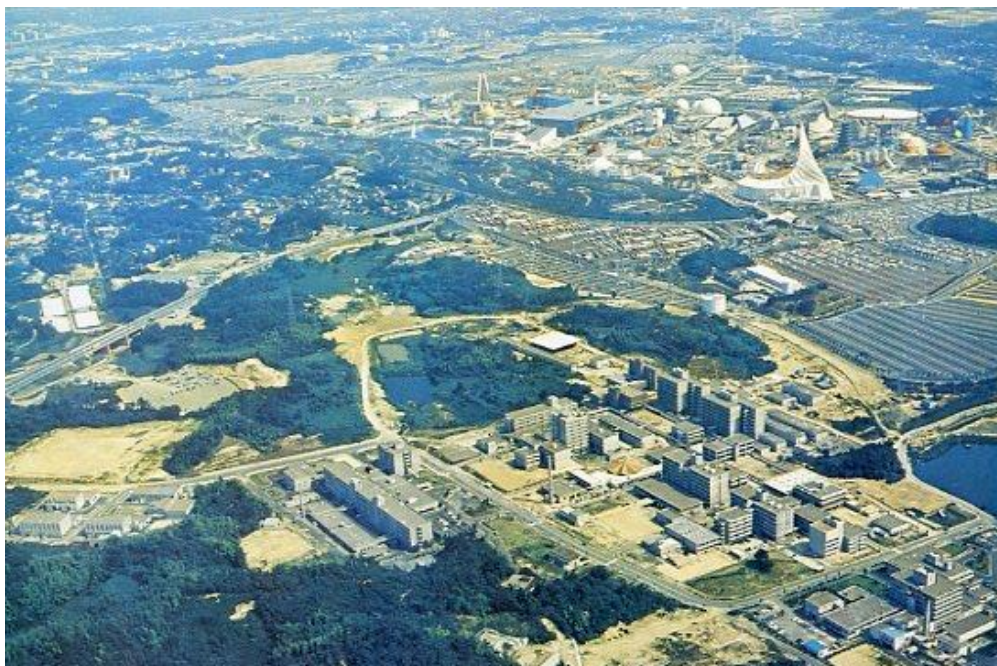




目次：

1970年の吹田キャンパス	1	業務日誌（抄）	13
国立大学文書館をめぐって考えたこと	2	大阪大学アーカイブズ規程	14
法人文書の移管について	4	退任のご挨拶	15
受贈刊行物	6	利用案内等	16



1970年の吹田キャンパス

現在の吹田キャンパスへの移転が検討され始めたのは1962年暮でした。移転候補地の買収は順調に進まず、また、予定地のかなりの部分は1970年に開催される日本万国博覧会の会場に充てられることになりました。1966年に吹田地区起工式が挙行され、その後1967年から微生物病研究所、同附属病院、産業科学研究所、工学部が移転していきました。1970年撮影のこの写真には、吹田キャンパス南側に万博パビリオンがみられます。  
(菅 真城)

# 国立大学文書館をめぐって考えたこと

東京大学総合研究博物館(東京大学史史料室)特任准教授 森本 祥子

## 1 はじめに

東京大学では、ようやく平成26年4月1日に大学文書館が設置される見通しとなった。

筆者は平成25年度から大学史史料室に勤務している。主たる仕事は大学文書館設置準備に携わることだが、そこで最初に考えたのは、すでに大学アーカイブズを持っている国立大学を見て廻り、教えを乞いたいということであった。小稿は、北は北海道大学から南は九州大学まで見学した中で感じたことを、少しばかり書いたものである。

各機関には、それぞれに業務多忙ななか、公文書管理法もよく読み込めていない状態で飛び込んだ筆者や本学職員に懇切に教示いただき、またさまざまな資料を提供いただいた。複数回の見学を受け入れていただいたところもある。そうした支援が準備を進めるうえでどれほど力になったかしのれない。改めてここにお礼申し上げる。

## 2 東京大学史史料室から東京大学文書館へ

周知のとおり、東京大学史史料室は『東京大学百年史』の編纂を終えた百年史編集室の資料を引き継いで昭和62年に設置された組織である。当初から大学アーカイブズとなることを目指していたが、組織の位置づけの弱さや不十分な職員体制もあり、アーカイブズとしての体制固めはなかなか進まず、公文書管理法成立に伴い国立公文書館等として指定を受けるという制度ができて、すぐにはその波に乗れずにいた。

しかし、平成22年11月に着任した吉見俊哉室長は、指定を受ける文書館を作ることは「できない」の問題ではなく「やらねばならない」ことである、という認識を強く持ち、直ちに文書館設置準備に取りかかった。そして学内関係各方面の尽力により、平成26年4月に「東京大学文書館」が無事設置されることになったのである。引き続き国立公文書館等としての指定を受けるべく準備を進めていく。

## 3 国立公文書館等としての制度整備の効果

国立大学の文書館としての先行事例を学ぶためにこれまでに訪問したのは、すでに国立公文書館等としての指定を受けている東北大学史料館、名古屋大学大学文書資料室、京都大学大学文書館、大阪大学アーカイブズ、神戸大学大学文書史料室、広島大学文書館、九州大学大学文書館、および、指定は受けていないがすでに何年もの活動実績のある、北海道大学大学文書館と東京外国語大学大学文書館である。予め共通の質問票を用意してそれに沿った説明を依頼することで、すべての訪問先から同じ項目で情報収集できるようにした。なお、煩雑を避けるため、以下、国立公文書館等としての指定を受けている大学アーカイブズ機関を一律に大学文書館と呼ぶこととする。

この一連の見学の結果一番感じたことは、大学文書館を持つことで法人文書管理体制全体の均質化が一気に進む、ということである。予めいっておくが、これは肯定的な意味で言うのである。

まず現用文書管理を考えてみよう。例えば本学がそうであるように、移管先の大学文書館を持たない場合、大学として保持する必要がある文書は、保存期間を延長するなどして現用文書としていることが多いと思う。そして現用文書を扱うのは一般に文書作成部署職員のみであるので、当該部署で文書が管理できていればよい。ファイル名が少々大雑把でも探せるし、10年分を一冊に綴っても特に困らない――。

それが移管先の大学文書館があると、こうした状況を改善する推進力となる。たいていの見学先で、大学文書館は現用の文書管理には十分関わっていないと嘆く声を聞いたが、外の者の目からみると、大学文書館があつて年度毎の移管がきちんと実施されていることによって、文書を作成する側にある種の緊張感ができ、必然的に現用文書管理の改善も進んでいるように思われた。文書が作成される時には部署毎に独自であっても、移管を経て統一的に管理される終着点がある、ということの意味はとても大きい。

次に大学文書館について見てみる。指定を受けるにあたっては、法やガイドラインをほぼそのまま受け入れることが求められる。そのために、各機関でそれまでのやり方との調整をするのに苦労をしたということは少なからずあったようだが、とにもかくにもどの機関でも共通のやり方を受け入れた結果、どこの大学文書館でも同じような文書が同じように流れてくる体制が出来、そうした共通性を踏まえて、異なる大学文書館同士が同じ土俵で議論する土台ができていると感じられた。

例えば公開について考えると、公開基準や利用規則が共通化されたことで、利用者にはずいぶんわかりやすくなったであろうし、利用できる文書のばらつきも減ったのではないだろうか。

このように文書の発生からアーカイブズまで法律・制度の支えがあり、よい意味で均質化が進んできたことは意味のあることだと、各機関を回って強く感じた。

すべてが同じようになったら大学毎の個性はどう尊重するのか、と言われるかもしれない。しかし公的機関の業務遂行文書である法人文書に限っていえば、何が重要かという判断はおそらく比較的共通するであろうし、それがどこでも同じように保存され同じ条件で公開されるということは、個性を発揮する点ではなく社会に対して共通に保証すべき点なのだと思う。大学の個性は、そもそもそうして残された文書から自ずと窺われるものであり、また法人文書以外の保存資料も含めた全体から見えてくるものではないだろうか。

#### 4 大学文書館として目指すべきこと

公文書管理法の対象とする組織のなかで、国立大学はマイナーな存在であり、独自のニーズをもつ組織である。その独自性とは、教育研究機関であるということである。そうした組織の特色を活かす文書館とはどうあるべきだろうか。

第一に、文書館専門職員として教育職のスタッフを持つことが必要だと考える。大学文書館は公的機関としてのアカウンタビリティだけでなく、教育研究活動の成果としての収蔵資料を次なる教育研究に活かすことも担うからである。文書館職員全員が教員である必要はないが、教員はやはり必要である。

第二に、公開のあり方が独自でありうる。行政に関わる文書であれば、誰にも等しく公開されるべきだが、大学文書館では、研究目的の独自公開基準があってもよいのではないだろうか。例えば資料に個人情報が含まれる場合でも、統計的な分析のために必要ならば閲覧を認めるなど。それは当該大学やひいては当該分野の研究を推進することになるからである。公平性の担保は簡単ではないかもしれないが、公文書管理法の今後の改正も視野に入れつつ、議論の価値はあろう。

#### 5 おわりに

もしも国立大学が自らのアーカイブズを持たなかったら。制度上は、文書は国立公文書館に移管すればよいだけのことである。しかしその場合、極端にいえば、個々の文書作成者と国立公文書館とが文書の移管の要否を判断することとなり、大学というまとまりで俯瞰した文書の重要性の判断が困難である。過剰に文書が残されるかもしれないし、何も残らないかもしれない。東京大学にとっては大事な事項であっても国にとっては問題にならないかもしれないからだ。各大学の事情をふまえたきめ細かな対応を、国全体のバランスを見る責任のある国立公文書館に求めるのは無理がある。大学ごとに自らの大学文書館を持たねばならない所以である。

最初に国立公文書館等としての指定を受けた大学文書館6館が第一子だとすれば、大阪大学アーカイブズは第二子、東京大学文書館はこれから生まれる末っ子である。今はお兄さんお姉さんに手を引いてもらうばかりだが、頑張って追いつき、いずれは大学文書館を支える力のひとつとなっていきたいと思う。



東京帝国大学庶務課文書の一部

## 法人文書の移管について

大阪大学アーカイブズ准教授 菅 真城

### 1. 国立公文書館等の指定と法人文書管理規程の改正

大阪大学アーカイブズ（以下「アーカイブズ」と略記）は、2013（平成25）年4月1日付けで公文書等の管理に関する法律（以下「公文書管理法」と略記）および同法施行令に基づき「国立公文書館等」として内閣総理大臣の指定を受けました（本誌第1号『国立公文書館等』と『歴史資料等保有施設』の内閣総理大臣指定参照）。これにより、大阪大学の保存期間が満了した法人文書のうち歴史資料として重要な文書をアーカイブズに移管することが可能になりました。そのため、国立大学法人大阪大学では、2013年3月31日付けで国立大学法人大阪大学法人文書管理規程を改正しました。それにより、法人文書の保存期間満了後の措置の設定や移管にアーカイブズが関与するようになりました。保存期間満了後の措置は、それまでは原則廃棄であったものが、廃棄もしくはアーカイブズへの移管とされました。アーカイブズに関する条文を以下に引用します。

（保存期間が満了したときの措置）

第20条 文書管理者は、法人文書ファイル等について、別表第1に基づき、保存期間の満了前のできる限り早い時期に、保存期間が満了したときの措置を定めなければならない。

2 前条第1項の法人文書ファイル等については、文書管理者は、保存期間が満了したときの措置を記載した法人文書ファイル管理簿を総括文書管理者に提出し、同意を得た上で、前項の措置を定めるものとする。

3 総括文書管理者は、前項の同意に当たっては、アーカイブズの専門的技術的助言を求めものとする。

（移管又は廃棄）

第21条 文書管理者は、総括文書管理者の指示に従い、保存期間が満了した法人文書ファイル等について、前条第1項の規定による定めに基づき、アーカイブズに移管し、又は廃棄しなければならない。

2 文書管理者は、前項の規定により、保存期間

が満了した法人文書ファイル等を廃棄しようとするときは、あらかじめ、総括文書管理者を通じアーカイブズに協議し、その同意を得なければならない。この場合において、アーカイブズが移管することが適当と判断した法人文書ファイル等については、アーカイブズに移管するものとする。

3 文書管理者は、前2項の規定により移管する法人文書ファイル等に、法第16条第1項第2号に掲げる場合に該当するものとして本学において利用の制限を行うことが適切であると認める場合には、総括文書管理者の同意を得た上で、アーカイブズに意見を提出しなければならない。

公文書管理法により日本版レコードスケジュールが導入され、文書管理者が保存期間満了前のできるだけ早い時期に保存期間が満了したときの措置（移管または廃棄）を定めることになりました（公文書管理法第5条第5項）。その措置の決定に当たっては、総括文書管理者（大阪大学の場合、事務担当理事）の同意が必要ですが、総括文書管理者が同意するに当たっては、アーカイブズの専門的技術的助言を求めるとされました。レコードスケジュールの作成に当たって、アーカイブズが関与できるようにしたのです。

そして、大阪大学においては、アーカイブズが法人文書の移管先とされました。法人文書を廃棄するに当たっては、アーカイブズの同意が必



移管された法人文書の一部

要になりました。公文書管理法の枠組みを守った上でアーカイブズが評価選別（移管・廃棄の決定）に関与できるようにしたのです。

## 2. 法人文書の移管と整理

本来ならば、平成25（2013）年度から法人文書のアーカイブズへの移管が始まるはずですが、受け入れ体制の整備に時間がかかることなどから、今年度は移管対象となる法人文書は原則保存期間を延長しました。しかし、全く法人文書を移管しなかったわけではありません。本部事務機構総務企画部総務課から、172冊の文書を移管しました。これらは作成年代が古く、大阪帝国大学時代の例規類もあります。多くは新制大学（1949年設置）の設置認可申請書です。移管された文書は、法人文書ファイル管理簿には登録されていない、いわゆる「簿外」文書ですが、文書館設置準備室時代に目録を作成しており、それに基づいて移管されました。

移管された文書は冷凍処理による殺虫を行い、埃等を除去した上で、ラベルを添付し、簿冊目録を作成しました。

また、廃棄予定文書のうちアーカイブズへの移管が適当と判断したものは、アーカイブズへ移管されることになっています（2月末現在で一部移管済み）。

これらの法人文書については、平成26年度から一般に利用に供する予定です。



移管された法人文書の排架状態

## 3. 今後の課題

平成26（2014）年度からは、本格的に法人文書の移管が始まります。平成26年度の移管予定文書は数千冊単位の多量になりますが、それらを

法人文書管理規程通りに確実に移管し、整理・公開していくこと、これが何より重要です。特定歴史公文書等の保存、利用及び廃棄に関するガイドラインの規定通りに、移管から1年以内に目録作成し書架に排架して、一般の利用に供さねばなりません。そのためには、整理方法をより効率化するとともに、現用文書の管理を主管する総務企画部総務課文書管理室や各部局の文書管理者と協力して、アーカイブズへの法人文書の移管・整理を遅滞なく進めていかなければなりません。評価選別は目録上で行うことを考えていますが、その判断を客観的に行うことも課題です。そして、一人ひとりの教職員に法人文書管理とアーカイブズへの移管の重要性を認識してもらうことも大切です。そのため、平成24年度から法人文書の移管についての説明会（研修）を実施しています。

また、整理の面での課題も残ります。現在作成している目録は先述したように簿冊目録であり、件名目録を作成できていません。まずは簿冊目録を作成して移管から1年以内に公開することが重要だと考えていますが、法人文書をより活用してもらうためには、件名目録が必要です。

さらに、今年度移管した総務課文書の多くは、昭和20年前後に作成されたものであり、紙質の酸性劣化が見られます。原本をこのまま一般の利用に供すると破損する恐れがあります。そのため、デジタル化して代替物を作成する必要がありますが、そのための予算確保等は現時点ではしておらず、今後の課題です。

このほかにも課題は多々ありますが、今年度の経験を生かして、来年度以降の法人文書の移管を進めてまいります。



殺虫処理用の冷凍庫

## 受贈刊行物 (2013年9月～2014年2月)

### 追手門学院大学

追手門学院大学創立50周年記念講演会[第2回] 建学の精神と自校教育(ポスター・チラシ)、追手門経営論集 第19巻第1号、追手門経済論集 第48巻第1号

### 大阪女学院学院教育研究センター

大阪女学院 学院教育研究センター 第3号、東雲の丘の学校2 蒔かれた種が 大阪女学院学院教育研究センター編

### 大阪市立大学大学史資料室

大阪市立大学史紀要 第6号、第5回 恒藤恭シンポジウム「戦争の世紀と恒藤恭の平和主義」(チラシ)

### 学習院アーカイブズ

学習院アーカイブズNEWSLETTER 第3号

### 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻

<就職状況ご提供のお願い>記録やアーカイブズ管理に関する人材募集の情報をお寄せください(チラシ)、学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻入試説明会(ポスター・チラシ)、記録を守り、記録を伝える～アーキビストの育成～(パンフレット・リーフレット・チラシ)

### 関西大学大阪都市遺産研究センター

関西大学大阪都市遺産研究センター研究叢書 別集4-1 『住友文庫ドイツ医学学位論文目録』第1巻

### 関西学院学院史編纂室

Voices from the Past to the Future Recollecting the History of Kwansai Gakuin, 1889-1940、学院史編纂室便り No.38

### 九州大学大学文書館

九州大学大学史料叢書 第19輯、九州大学大学文書館ニュース第37号、九州大学大学文書館利用案内(リーフレット)

### 京都産業大学

京都産業大学キャンパスマガジンサギタリウス vol.61・62

### 京都大学大学文書館

京都大学大学文書館企画展 戦時期の京大～「学徒出陣」70年～(チラシ)、京都大学大学文書館常設展 第三高等学校の歴史(チラシ)、京都大学大学文書館だより 第25号

### 近畿大学建学史料室

世耕弘一先生ドイツ留学90周年記念史料展示会－東京からベルリンへ(チラシ)

### 慶應義塾福澤研究センター

慶應義塾福澤研究センター通信 第19号

### 神戸女学院史料室

學報 No.169、神戸女学院岡田山キャンパス ヴォーリズ建築の魅力とメッセージ

### 神戸大学附属図書館大学文書史料室

平成25年度神戸大学史・特別展 出光佐三と神戸高商－「海賊とよばれた男」の学生時代－(ポスター・チラシ)

### 駒澤大学禅文化歴史博物館

震災と復興建築～大正時代の駒澤大学～(ポスター・チラシ)

### 滋賀大学経済学部附属史料館

平成25年度企画展滋賀大学経済学部創立90周年記念 彦根高商の日々－開け黙々として語る史書－(ポスター・パンフレット・チラシ)

### 淑徳大学アーカイブズ

淑徳大学アーカイブズ・ニュース 第7・8号、平成25年度淑徳大学アーカイブズ特別展 大巖寺と生実郷(ポスター・チラシ)

### 女子美術大学歴史資料室

女子美術大学歴史資料室ニューズレター TEXNH MAKPA 第6号、平成25年度収蔵資料展「収蔵資料にみる女子美の歩み～私立女子美術学校開校時に設置された学科を中心に～」(チラシ)

### 成城学園教育研究所

成城教育 第162号

### 大東文化歴史資料館

大東文化大学 大東文化90年の歩み Calendar 2014、大東文化大学の歩んできた道、大東文化歴史資料館だより 第15号

### 玉川大学教育博物館

玉川大学教育博物館紀要 館報11号

### 東海大学学園史資料センター

東海大学学園史ニュース 第8号、東海大学湘南校舎開設50周年記念写真集 キャンパスに描いた夢－湘南

の半世紀ー

#### 東京学芸大学大学史資料室

大学史資料室(2012.6.20)、東京学芸大学大学史資料室展示会 学生生活とキャンパスの移り変わり 學藝アルバム(チラシ)

#### 東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター

芸術・文化情報とオープンデーター創造・研究と社会のためのアーカイブ(チラシ)

#### 東京大学史史料室

東京大学史史料室ニュース 第51号

#### 同志社社史資料センター

ハリス理化学館同志社ギャラリー(リーフレット)、ハリス理化学館同志社ギャラリー第1回企画展 新島襄と八重ー新島襄肖像ガラス湿板本邦初公開ー(ポスター・チラシ)

#### 東北大学史料館

東北大学史料館企画展「女子学生」の誕生ー100年前の挑戦ー(ポスター)、東北大学史料館創立50周年記念講演会「『大学アーカイブズ』とこれからの大学」(ポスター)、東北大学史料館だより No.19

#### 東洋英和女学院

楓園 No.72・73、史料室だより No.81

#### 東洋大学井上円了記念学術センター

井上円了センター年報 Vol.22

#### 獨協学園史調査研究資料センター

第3回企画展 獨協の礎をつくった先人たち(チラシ)、獨協百三十年

#### 長崎大学

広報誌CHOHO Vol.45・46・特別号、長崎大学リレー講座2013 明日を創造する人材の条件(パンフレット)、平成25年度あじさいプロジェクト 幸せを感じる働き方を目指して(チラシ)

#### 日本女子大学

激動の時代を生きて 高良とみ

#### 広島大学高等教育研究開発センター

大阪大學新聞(昭和41年1月10日～42年12月10日)、広島大学高等教育研究開発センター 40年の歩み

#### 広島大学文書館

作家 梶山秀之とヒロシマ(ポスター)

#### 法政大学大学史委員会

学び舎から戦場へー学徒出陣71周年 法政大学の取り組みー(ポスター・チラシ)

#### 武蔵学園記念室

武蔵九十年のあゆみ

#### 明治学院大学

明治学院百五十年史、明治学院百五十年史 主題編

#### 明治大学史資料センター

専修大学 中央大学 日本大学 明治大学 企画展 近代日本の幕開けと私立法律学校ー神田学生街と法典論争ー(ポスター・展示パンフレット・チラシ)

#### 龍谷大学大学史資料室

龍谷大学史報 vol.14

#### 国文学研究資料館

国文研ニュース No.33・34

#### 全国大学史資料協議会東日本部会

大学アーカイヴズ No.49

#### 全国大学史資料協議会西日本部会

研究叢書第14号 大学アーカイヴズの社会貢献

#### 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室

1995.1.17被災地を…もう一度、定点観測してみた。(チラシ)、資料室ニュース vol.51、多様なかたりつぎのカタチ(パンフレット)

#### あおぞら財団

イタイタイ病を考える県民フォーラム(チラシ)、資料館だより No.46・47、廃油キャンドルナイト(チラシ)、わくわく広げよう公害資料館の公害資料館連携フォーラムin新潟(チラシ)

#### 尼崎市立地域研究史料館

地域史研究ー尼崎市立地域研究史料館紀要ー 第113号

#### 茨城県立歴史館

資料が語る 日本の歴史茨城のあゆみ(ポスター・チラシ)

**磐田市歴史文書館**

磐田市歴史文書館開館5周年記念要覧

**沖縄県公文書館**

沖縄県公文書館だよりARCHIVES 第45号

**香川県立文書館**

企画展示アーカイブズ展2014 高松空港 今・昔ー大切な歴史資料を後世に伝えようー、平成25年度企画展「地震のアーカイブズー記録にみる香川の地震ー」(チラシ)

**神奈川県立公文書館**

神奈川県立公文書館だより 第30号

**京都府立総合資料館**

京都府立総合資料館開館50周年記念企画展 資料にぞくっ！(チラシ)、京都府立総合資料館開館50周年記念シンポジウム「！」をさがせ(ポスター)、総合資料館だより No.177・178

**宮内庁書陵部図書課宮内公文書館**

摂政宮と関東大震災ー宮内庁の記録からー昭和天皇記念館・宮内庁宮内公文書館共催展図録、みゆきのあとー明治天皇と多摩ー(ポスター・チラシ)

**国立公文書館**

アーカイブズ 第51号、国立公文書館報北の丸 第46号、平成24年度アーカイブズ研修Ⅲ修了研究論文集

**寒川文書館**

寒川文書館だより Vol.14、寒川文書館年報 第6号

**東京都公文書館**

東京都公文書館だより 第23号

**栃木県立文書館**

栃木県立文書館第25回企画展 古文書にすむ動物たちとの対話ー人と動物のつきあいに見る下野の江戸時代ー、文書館だより 第54号

**長野県立歴史館**

長野県立歴史館だより 冬号vol.77、平成25年度館所蔵品展 戦前の観光信州ーパンフレットでたどる昭和初期の鉄道、山岳、温泉(チラシ)、平成25年度冬季展 山国の水害ー戊の満水と善光寺地震ー(ポスター・チラシ・招待券)

**福井県文書館**

福井県文書館年報 第10号、文書館だより 第21号

**福岡共同公文書館**

福岡共同公文書館だより 第1号、平成24年度 福岡共同公文書館年報 第1号

**福島県歴史資料館**

福島県史料情報 第37号

**藤沢市文書館**

藤沢市文書館 紀要三十三、藤沢山日鑑 別館 近侍者記録 三

**和歌山県立文書館**

和歌山県立文書館だより 第38号

**日本アーカイブ学会**

日本アーカイブズ学会2013年度第2回研究集会「地域の中の学校資料とアーカイブズ」(ポスター・チラシ)

**大阪大学広報・社会学連携オフィス**

大阪大学ニューズレター No.62、阪大NOW No.138・139

**大阪大学総務企画部**

大阪大学絵はがき(第1～4集)、大阪大学職員録 平成24年

**大阪大学情報推進部**

Cybermedia Center, Osaka University information 2013 October

**大阪大学学生部**

大阪大学におけるTA制度改革とSTA制度の創設ー平成24年度STA業務報告書の分析を中心にー、大阪大学におけるキャリア形成教育の現状とあり方についての報告書、博士学位論文 内容の要旨及び審査結果の要旨第97集、平成25年度 ファカルティ・ディベロップメント研修報告書

**大阪大学学際融合教育研究センター**

学際融合教育シンポジウム 主専攻に準ずる専門領域の獲得を目指す学際融合教育について考える(チラシ)、学際融合教育ミニシンポジウム(大阪大学大学院等高度副プログラム「持続可能な日本の進路を考える」特別企画) 地域社会圏と日本のリデザイン(チラシ)、平成24年度 学際交流学際融合教育セミナー実





ニュース なにわ、第74回未来医療セミナー Noninvasive Neuroprosthetic Technologies to Restore Upper and Lower-Body Motor Function After Severe Paralysis(チラシ)、第75回未来医療セミナー 生体イメージングによる医学・生命科学研究の新展開(チラシ)、第76回未来医療セミナー ヒト ES/iPS細胞から臨床応用に適した心筋分化誘導法を開発(チラシ)、第77回未来医療セミナー 脊髄損傷からの機能回復戦略～神経メカニズムからSpinal Computer Interface～(チラシ)、平成24年度 アニュアルレポート

#### 大阪大学歯学部附属歯科技工士学校

平成26年度 学生募集要項 大阪大学歯学部附属歯科技工士学校

#### 大阪大学大学院工学研究科・工学部

大阪大学大学院工学研究科 平成26(2014)年4月入学博士後期課程学生募集要項第2次募集、大阪大学大学院工学研究科 平成26(2014)年4月入学博士前期課程学生募集要項(学部3年次学生を対象とする特別選抜)、大阪大学大学院工学研究科・工学部 2013(要覧・リーフレット)

#### 大阪大学大学院基礎工学研究科・基礎工学部

“Engineering Science 21st Century”Special Program for April or October 2014! Master’s and Doctoral Courses in English(チラシ)、21世紀の科学と技術のパイオニア 2014、Special Program of “Engineering Science 21st Century” for Master’s and Doctoral Courses in English Graduate School of Engineering Science, OSAKA UNIVERSITY “Enrollment in April 2014” Application Guide for Foreign Students、Σ 留学生相談室だより No.14、大阪大学太陽エネルギー化学研究センター 2001～2011年度年報、第1～11回 大阪大学太陽エネルギー化学研究センターシンポジウム講演予稿集、第35回 公開講座「未来を拓く最先端科学技術」(パンフレット・講座テキスト)、平成27年度大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程推薦入学特別選考学生募集要項

#### 大阪大学大学院国際公共政策研究科

OSIPP NEWS LETTER Vol.64 Autumn 2013、OSIPP 稲盛財団寄附講座公開セミナー 公共空間と倫理 Vol.1・2(チラシ)、OSIPP創設20周年記念講演シリーズ 第1回講演会～OSIPP政策フォーラム第63回～ 古澤満宏氏(財務省財務官) 「最近の国際金融情勢と今後の展望」(ポスター)、OSIPP創設二十周年記念講演

シリーズ 第四回講演会「国際連合大学学長・国際連合事務次長 デイビット・マーロン氏講演会」(ポスター)、大阪大学大学院国際公共政策研究科(OSIPP) 藪中三十二特任教授Open教室 「日本外交のこと、外務省のこと」(ポスター)、国際公共政策研究 第18巻第1号(通巻第33号)、第62回 OSIPP政策フォーラム INDIA’S DIPLOMACY Strengths Challenges(ポスター・チラシ)

#### 大阪大学大学院高等司法研究科

Handai Law Letter 第4号、大阪大学大学院高等司法研究科ニュースレター No.12

#### 大阪大学蛋白質研究所

Memoirs of the Institute for Protein Research Osaka University Vol.55 2013、大阪大学蛋白質研究所研究レポート 平成24～25年度

#### 大阪大学社会経済研究所

大阪大学社会経済研究所 第4回外部評価報告書、TRANSACTIONS OF JWRI Vol.42No.1 2013

#### 大阪大学低温センター

平成24年度 共同利用研究成果報告書

#### 大阪大学ラジオアイソトープ総合センター

大阪大学ラジオアイソトープ総合センター 創立30周年記念誌

#### 大阪大学環境安全研究管理センター

環境安全ニュース No.49・50

#### 大阪大学国際教育交流センター

平成21年度初任者研修 リーディング・ティーチャー養成研修 実施報告書、平成23・25年度大阪府教育センター初任者研修における社会体験研修 実施報告書

#### 大阪大学総合学術博物館

大阪大学総合学術博物館第17回企画展 野中古墳と「倭の五王」の時代(ポスター大・中、チラシ)、大阪大学総合学術博物館第6回特別展 緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知(ポスター大・中、チラシ)

#### 大阪大学臨床医工学融合研究教育センター

MEI News Letter No.6～9・12～14、大阪大学臨床医工学融合研究教育センター 2011年度 シラバス、大阪大学臨床医工学融合研究教育センター 2012・2013年度 履修手引、大阪大学臨床医工学融合研究

教育センター(パンフレット) Vol.1~6

### 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

Communication—design [9]

### 大阪大学金融・保険教育研究センター

大阪大学金融・保険教育研究センター 2013(パンフレット)、大阪大学金融・保険教育研究センター 平成二十四年度活動報告書、平成26年度4月入学 大阪大学金融・保険教育研究センター科目等履修生高度プログラム「金融・保険」【募集要項】

### 大阪大学グローバルコラボレーションセンター

GLOCOLセミナー(105)/グローバルエキスパート連続講座 人事担当が教える国連キャリア採用の秘訣(チラシ)、GLOCOLセミナー(106) On Strategic Paranoia the case of contemporary Serbia、GLOCOLセミナー(107) サンガレン・シンポジウム説明会 Introduction to St.Gallen Symposium、GLOCOL Seminar(108) Responding to the NCD Crisis in Palau(チラシ)、GLOCOLセミナー(109)/グローバルエキスパート連続講座(20) 法曹人×グローバル(チラシ)、GLOCOLセミナー(110) 持続は地元学から(チラシ)、GLOCOLセミナー(111) FIELDGグローバル・エキスパート連続講座(21) 災害緊急援助 そこで、あなたは何を考え、何を決断しますか(チラシ)、The New Universities:A Bridge to Communities、A Bridge for Communities 大学の新しいかたちをもとめて(チラシ)、おいしくて、そして心に効くドキュメンタリー映画 よみがえりのレシピ(チラシ)、大阪大学グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)「足もとの国際化連続セミナー」多様性が生きる社会とは?(チラシ)、大阪大学グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)あしもとの国際化連続セミナー 多様性のミニパブリックス:サミット2014「私たちの、明日の私たちへの提案」(チラシ)、シンポジウム「混成アジア映画がつなぐ東アジア世界—『Fly Me to Minami~恋するミナミ』が照らす世界」(チラシ)、第26回研究者と実務者による国際協力セミナー 研究者と支援の融合とは:SATREPSの経験を通して(チラシ)、第27回 研究者と実務者による国際協力セミナー 国境を越えたまちづくり活動の意義と可能性(チラシ)、防災・復興・まちづくりとコミュニティラジオの底力(チラシ)、めざせ国際機関・NGO!(チラシ)

### 大阪大学日本語日本文化教育センター

センター広報 第18・19号、日本語・日本文化 第39号

### 大阪大学サイバーメディアセンター

大阪大学サイバーメディア・フォーラム No.14

### 懐徳堂記念会

第124・126回懐徳堂秋季講座 大阪の映画、映画のなかの大阪(チラシ)、平成26年度古典講座4月開講受講生募集(チラシ)

### 加藤四郎(大阪大学名誉教授)

加藤四郎教授停年退官記念誌 大阪大学微生物病研究所感染病理学部門業績集 1953—1989

### 咲耶会(大阪外国語大学・大阪大学外国語学部同窓会)

会報「咲耶」No.24(2013)

### 富岡勝(1880年代教育史研究会事務局)

1880年代におけるエリート養成機能形成過程の研究—高等学校成立史を中心に—研究成果報告書

### 日本経済評論社

地域文化史の調査と研究

### レコード・マネジメント/アーカイブズ全国大会実行委員会

未来に繋ぐ記憶と記録〜レコード・マネジメント/アーカイブズ全国大会2013〜(チラシ)

### 阿部武司(大阪大学)

「超域イノベーション博士課程プログラム」2014年度新超域生募集(チラシ)、「待陵」第11号 創立80年祭記念号、2005年度研究戦略ワーキング報告書、2013 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター CSCD コミュニケーションデザイン科目 高度副プログラム[コミュニケーションデザイン]副専攻・高度副プログラム[公共圏における科学技術政策] 履修ガイドブック・シラバス、2013年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメントプログラムガイド 12月〜3月、2014 大阪大学経済学部、Communication—design [8]・[9]、CSCD presents 公開セミナー あなたは何タイプ? 人生を変える120分(チラシ)、CSCD presents 知デリ in 豊中キャンパス アート&テクノロジー知術研究プロジェクト 懐かしさの未来(チラシ)、DMA News-Letter Vol.6、ECOCA ECONomics Connect Activate 大阪大学経済学部同窓会学生会部会 入会案内、Ecoca Links 第2号、ECONOMICS AND BUSINESS 大阪大学大学院経済学研究科 2012〜2014、Graduate School of Economics OSAKA UNIVERSITY、Handai Law Letter 第3号、MACHIKANE FESTIVAL(第54回まちかね祭パンフレット)、OFC NEWSLETTER 第13号、OSIPP NEWS

LETTER Vol.60~64、OUTLINE 2003 大学のアウトライン、VOICE AUTUMN 2012・SPRING 2013、アートエリアB1 サーチプロジェクトvol.2 山本キノコシアター presents スペシャルイベント(チラシ)、アートエリアB1 サーチプロジェクトvol.2 山本キノコシアター(プログラム)、アートエリアピーワン B1 1・2・4~12、アサヒラボ・ガーデン×大阪大学コミュニケーションデザイン・センター PROJECT REPORT 02、いちよう祭 2013 (パンフレット)、大阪・京都文化講座(後期) 古きものと新しきもの—大阪京都の芸術(チラシ)、大阪・京都文化講座(前期) 災害・戦災の歴史—その教訓に学ぶ(チラシ)、大阪大学 平成25・26年度学生募集要項、大阪大学21世紀懐徳堂活動報告書 2012、大阪大学経済学部同窓会名簿 2007年版、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター大学院副専攻/大学院等高度副プログラム「公共圏における科学技術政策」(リーフレット)、大阪大学シンポジウム 適塾創設175周年・緒方洪庵没後150年記念「医の知の未来へ」(チラシ)、大阪大学総合学術博物館叢書 2 「武家屋敷の春と秋」、大阪大学総合学術博物館叢書 3 「城下町大坂」、大阪大学総合学術博物館叢書 4 「映画『大坂観光』の世界」、大阪大学総合学術博物館叢書 5 「巨大絶滅動物 マチカネワニ化石—恐竜時代を生き延びた日本のワニたち—」、大阪大学総合学術博物館叢書 8 「ものづくり上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高等工業学校醸造科—」、大阪大学総合学術博物館編「見る科学」の歴史—懐徳堂・中井履軒の目—、大阪大学大学院経済学研究科・経済学部 研究教育活動報告書 1998年11月、大阪大学大学院経済学研究科・経済学部 自己点検・評価報告書(2009.4~2012.3)、大阪大学大学院高等司法研究科ニュースレター No.9、大阪大学図書館報 46巻1・2号、大阪大学図書館報 Vol.44 no.2、大阪大学中之島センター(チラシ)、大阪大学にURAという新しい職種が整備されつつあります。(リーフレット)、大阪大学の博士課程教育リーディングプログラム(パンフレット)、大阪大学法学部50周年記念アルバム、大阪大学未来トーク 安藤忠雄 人生を企画する(チラシ)、緒方洪庵と適塾 大阪大学所蔵 適塾関連資料から、懐徳堂記念会日より No.93・96、懐徳堂—浪華の学問所、感性と知性を刺激する大阪大学のラボカフェスペシャル ワークインプログレス/プレゼンテーション(チラシ)、キャンパスライフ 2013、九州大学大学史史料室(パンフレット)、教官基礎データ登録マニュアル、グローニンゲン大学留学説明会(チラシ)、言文だより 第30号—言語文化研究科2012—、サイエンスカフェ・オンザエッジ⑬~先端の化学者が見ているコト・モノ~ 炎症 体にとって敵か味方か(チラシ)、作道洋太郎 略歴・著作目録、室報第35・37号 留学生相談室、社団法人生産技術振興

協会 大阪大学生産技術研究会(リーフレット)、出張!! アサヒラボガーデンinまちかね祭(チラシ)、生涯学習開発財団シンポジウム2013 多元的共生社会におけるコミュニケーションカシ리즈 第3回 自分を活かす働き方と暮らし方(チラシ)、生産と技術 Vol.64 No.2・4、Vol.65 No.2~4、Vol.66 No.1、第123回懐徳堂春季講座 絵巻・写本・絵文書 イメージと文字の芸術(チラシ)、第126回懐徳堂秋季講座 大阪の映画、映画のなかの大阪(チラシ)、第28回大阪大学大学院基礎工学研究科産学交流会(チラシ)、第52回全国七大学総合体育大会パンフレット、第6回適塾講座 病院と製薬企業の歴史—ヨーロッパと日本の経験から(チラシ)、ちよつと名大史、鉄道芸術祭vol.3 松岡正剛プロデュース 上方遊歩46景 言葉・本・名物による展覧会 関連プログラム エディット・トレイン ギターと浪花節との道行き(チラシ)、鉄道芸術祭vol.3 松岡正剛プロデュース 上方遊歩46景 言葉・本・名物による展覧会(チラシ)、同窓会名簿(OSIPP)1999-2000、名古屋大学の法人化と展開、浪高同窓会報 第47・48・50号、ノーベル化学賞受賞科学者を支えた研究交流会(チラシ)、阪大NOW No.138・139、阪大受験必読BOOK、ひるぜんセミナーハウス(チラシ)、平成22年度全学共通教育科目 授業担当教員マニュアル(必携)、平成24~26年度専門セミナー・研究セミナー履修の手引き、平成24・25年度 学生便覧、平成24・25年度 授業概要(シラバス) 大阪大学経済学部、平成24・25年度 授業概要(シラバス) 大阪大学大学院経済学研究科、平成24年度 学際交流学際融合教育セミナー実施報告書、平成24年度 学際融合教育研究センター 活動報告書、平成24年度 学際融合教育シンポジウム実施報告書、平成25年度 大阪大学大学院経済学研究科 博士後期課程学生募集要項、平成25年度 大阪大学大学院副専攻プログラム 大学院等高度副プログラム、平成25年度 大阪大学適塾記念講演会(チラシ)、平成25年度 全学共通教育科目履修の手引、平成25年度授業時間表 1・2年次用、平成25年度全学共通教育科目 授業担当教員マニュアル(必携)、平成26年度 大阪大学経済学部第3年次編入学学生募集要項、平成26年度 大阪大学大学院経済学研究科 博士前・後期課程学生募集要項、平成26年度 大阪大学入学者選抜要項、待兼山 第20~23・26・29号、未来戦略機構 未来へ始動 大阪大学未来戦略シンポジウム(チラシ)、ラボカフェ 2013.04~2014.02

#### 菅真城(大阪大学)

大阪大学経済学 第63巻第2・3号、大阪大学経済学 第63巻第2・3号抜刷「園田昇名誉教授に聞く—大阪大学の思い出—(1)・(2)」、大学アーカイブズの世界

## 業務日誌(抄) (2013年9月～2014年2月)

### 2013年

- ・9月13日 札幌市公文書館から業務内容について照会。
- ・9月18日 東京学芸大学大学史史料室から成績の閲覧について照会。
- ・9月29～30日 菅、仙台出張。東北大学史料館創立50周年記念講演会「大学アーカイブズ」とこれからの大学」に出席。
- ・9月30日 中川清氏（大阪外国語大学卒業生）から資料受贈。
- ・10月2日 名古屋大学大学文書資料室から名誉教授の写真について照会。
- ・10月3日 経済学研究科・経済学部「文書学Ⅱ」開講。
- ・10月9～11日 菅、東京出張。全国大学史資料協議会2013年度総会ならびに全国研究会（明治大学・国立公文書館）に出席。
- ・10月18日 菅、大津出張。全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会第123回例会（滋賀県庁）に出席。
- ・11月11日 龍谷大学教員から所蔵資料について照会。
- ・11月14～15日 菅、東京出張。全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第39回全国（東京）大会（学習院大学）に出席。
- ・11月16日 菅、京都出張。京都府立総合資料館50周年記念シンポジウム「総合資料館の50年と未来」に出席。
- ・11月19日 菅、アート・アーカイブズ概論で「日本のアーカイブズと大阪大学アーカイブズ」について講義。
- ・11月22日 東京学芸大学教職員7名、視察のため来室。
- ・11月26日 毎日新聞社記者、取材のため来室。
- ・11月29日 適塾記念センターから適塾に保管されていた大阪大学関係資料について情報提供。

- ・12月2日 筑波大学教職員5名、視察のため来室。
- ・12月3日 菅、東京出張。出版文化社主催「第3回学園アーカイブセミナー」で「大学アーカイブズの設立とその意義－大阪大学の事例を中心に－」講演。
- ・12月10日 熊本大学60年史編纂室からアーカイブズの設備について照会。
- ・12月11日 第2回アーカイブズ運営委員会を開催。
- ・12月18日 工学研究科総務課評価広報係から移管資料について照会。
- ・12月24日 学外から資料閲覧について照会。

### 2014年

- ・1月8日 文学研究科日本史学研究室所蔵の大学史関係資料を調査。
- ・1月10日 立教大学池袋図書館から資料閲覧について照会。
- ・1月21日 国立公文書館職員、デジタル・アーカイブ・システム標準仕様書説明のため来室。
- ・1月22日 菅、土岐市出張。自然科学系アーカイブ講演会（核融合科学研究所）で「大阪大学アーカイブズ設立の経緯と課題」講演。
- ・1月28日 総合学術博物館から塩見理化学研究所の写真について照会。
- ・2月6日 文学研究科日本史学研究室から大学運営関係文書を受贈。
- ・2月13日 熊本大学から国立公文書館等の指定について照会。
- ・2月20日 加藤四郎名誉教授のビデオ撮影。東京工業大学から資料管理システムについて照会。
- ・2月25日 菅、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会第124回例会（大阪市立総合生涯学習センター）に出席。
- ・2月26日 中村宣一郎名誉教授のビデオ撮影。
- ・2月28日 兼任教員懇談会を開催。

## 大阪大学アーカイブズ規程

(設置)

第1条 大阪大学（以下「本学」という。）に、大阪大学アーカイブズ（以下「アーカイブズ」という。）を置く。

(目的)

第2条 アーカイブズは、公文書等の管理に関する法律（平成21年法律第66号。以下「法」という。）に基づく特定歴史公文書等及び本学の歴史に関する資料の適切な管理を行うことにより、本学の円滑な管理運営に資するとともに、教育、研究及び社会貢献に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 アーカイブズは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 法に基づく特定歴史公文書等の整理、保存、公開及び調査研究
- (2) 法に基づく歴史公文書等の保管、評価選別、移管及び調査研究
- (3) 本学の歴史に関する資料の収集、整理、保存、公開及び調査研究
- (4) 前3号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な業務

(部門)

第4条 前条各号の業務を行うため、アーカイブズに次の部門を置く。

法人文書資料部門  
大学史資料部門

(職員)

第5条 アーカイブズに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 専任教員
- (3) 兼任教員
- (4) その他必要な職員

(室長)

第6条 室長は、本学の専任教授のうちから総長が指名する者をもって充てる。

2 室長は、アーカイブズの業務を総括する。

3 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第7条 アーカイブズに、アーカイブズの円滑な運営を図るため、アーカイブズ運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) アーカイブズの専任教員
- (3) アーカイブズの兼任教員のうちから室長が指名した者3名
- (4) 総合学術博物館から選ばれた教授又は准教授1名
- (5) 総務企画部長
- (6) 附属図書館事務部長
- (7) その他委員会が必要と認めた者

3 前項第4号及び第7号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 委員会に委員長を置き、第2項第1号の委員をもって充てる。

5 委員長は、委員会を主宰する。

6 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(委員会の議事等)

第8条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立するものとする。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。
- 4 前条及びこの条に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第9条 アーカイブズに関する事務は、総務企画部総務課文書管理室で行う。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、アーカイブズに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成24年10月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成25年4月1日から施行する。

## 退任のご挨拶

大阪大学アーカイブズ室長 阿部 武司

私事この3月末をもちまして大阪大学を離れ、4月には国土館大学政経学部に移ることになりました。2004年度末以来ちょうど10年間、大阪大学におけるアーカイブズの設置・運営に携わってきたこととなります。「文書館（仮称）設置検討ワーキング」の設置（2005年1月）、豊中キャンパス内での文書館設置準備室の立ち上げ（2006年7月）、同準備室の箕面キャンパスへの移転（2011年4月）、同準備室の大阪大学アーカイブズへの発展的改組（2012年10月）、同アーカイブズに対する、内閣総理大臣による「国立公文書館等」および「歴史資料等保有施設」の指定（2013年4月）といった一連の展開が走馬灯のように想い起こされます。

私はそれらすべての責任者を務めさせていただきましたが、自分一人でそうした過程を自由に進められたはずはもちろんございません。その間にご支援を賜りました担当理事・副学長（歴代）であられた鈴木直、西田正吾、尾山眞之助、恵比須繁之の諸先生をはじめ、お世話いただきました先生方・事務方の皆様に心より御礼申し上げます。

大阪大学アーカイブズは来たる2014年度からその本務ともいふべき、保存期間が満了した法人文書の移管を本格的に開始することになります。室長は、阿部に代わりまして飯塚一幸大学院文学研究科教授に担当いただくこととなります。今後とも大阪大学アーカイブズへのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 大阪大学アーカイブズ利用案内

### ・開室日

次に掲げる日を除く毎日

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (3) 12月29日から翌年の1月3日までの日

### ・利用時間

午前9時30分～午後4時30分

### ・利用請求の受付

午前9時30分～正午、午後1時～午後4時

### 大阪大学アーカイブズ構成員名簿

室長 阿部 武司  
(経済学研究科教授)  
准教授 菅 真城

### 〈事務担当〉

### 大阪大学総務企画部総務課文書管理室員名簿

室長 田中 良和  
(総務企画部総務課長)  
室長代行 藤井 勝博  
(嘱託職員)  
室長補佐 平野 雅宏  
事務補佐員 川口由美子  
石崎 光穂



### 大阪大学アーカイブズニュースレター 第3号

発行日 2014年3月31日  
編集発行 大阪大学アーカイブズ  
〒562-8558  
大阪府箕面市粟生間谷東8-1-1

Tel. (072) 730-5113  
Fax. (072) 730-5114  
E-mail office@archives.osaka-u.ac.jp  
[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/facilities/ed\\_support/archives\\_room](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/facilities/ed_support/archives_room)